

「より実地的な口腔環境を想定した状態における 口腔保湿ジェルの物性特性」

歯科薬物療法 136-145, Vol.35, N0.3, 2016「口腔保湿ジェル剤の口腔環境を想定した物性試験」より一部改変

ジェル状の口腔ケア剤(いわゆる口腔保湿ジェル)は,外来の唾液分泌減少患者における乾燥に対する有用性に加えて,入院の高齢患者における口腔乾燥に対する有用性や,脳血管障害後遺症患者における気道感染予防効果が認められている。

保湿効果が高く,誤嚥を引き起こしにくく,使用感の良い製品が理想的であるが,臨床で適切に使用するためには,特に口腔内に塗布された状態における製品の特徴を熟知することが重要である。

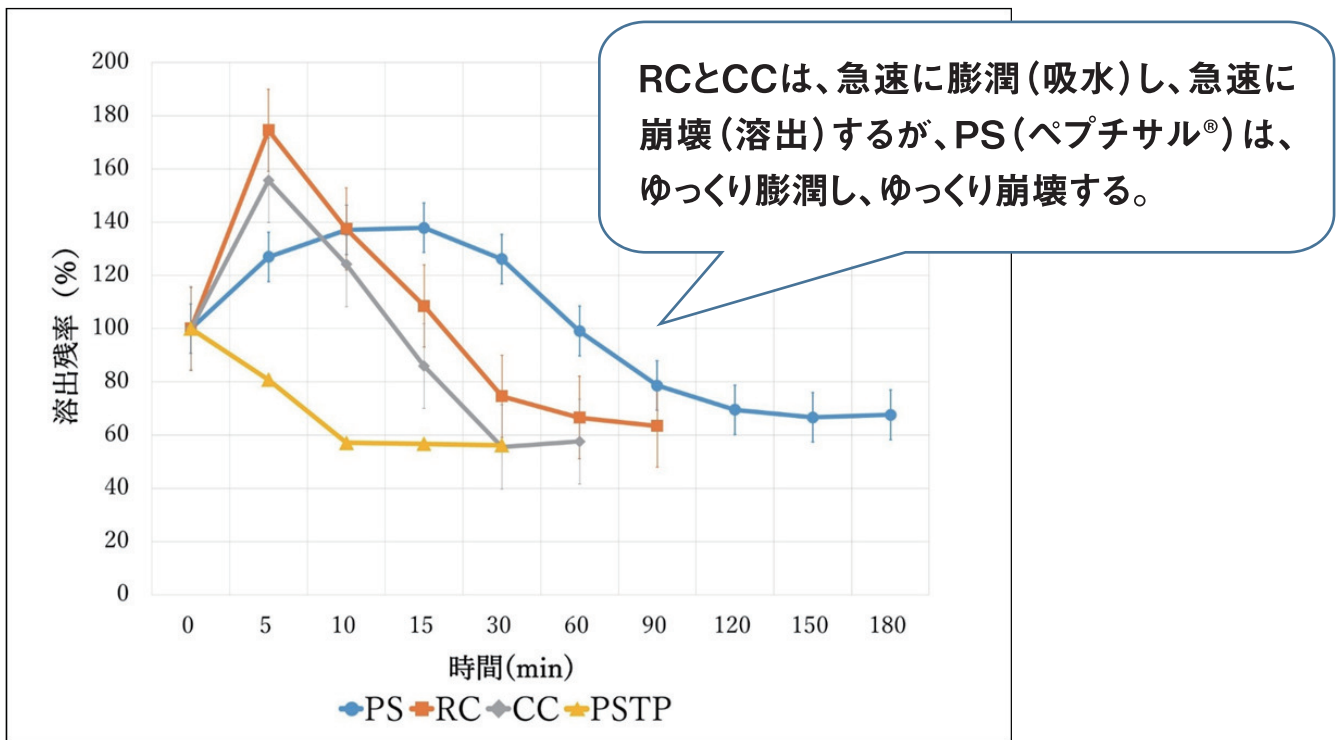


図 ろ紙からのジェル溶出試験

試験ジェル約0.8gをろ紙に均一になるように片面に塗布し,溶出試験装置に固定し,溶出残率(%)を求めた。
※時間軸の30分以前は作図の関係上,幅を拡張してある。

ろ紙からのジェル溶出試験は,浸漬前を100%として溶出残率(%)として示した(上図)。

PSの溶出速度は,RCやCCと比較すると遅かった.PS-TPは早期に崩壊した.計測から60分後の時点での溶出残率(%)を比較すると,3剤間に有意差があった。(Kruskal-Wallis test, $P < 0.0001$)

PS(ペプチサル®)は、高い水分吸収性、高い付着性、低い崩壊・溶出性を示し、長時間にわたって高い保湿効果を維持できる可能性が示唆された。